



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年1月27日

上場会社名 株式会社ダスキン 上場取引所 東
 コード番号 4665 URL <http://www.duskin.co.jp/corp/index.html>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山村 輝治
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長 (氏名) 内藤 秀幸 TEL 06-6821-5071
 四半期報告書提出予定日 平成29年2月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績（平成28年4月1日～平成28年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	123,676	△1.3	5,132	14.0	6,385	13.4	4,371	14.3
28年3月期第3四半期	125,267	△2.3	4,503	8.7	5,629	△3.2	3,824	12.5

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 4,695百万円 (△34.2%) 28年3月期第3四半期 7,135百万円 (26.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	79.46	—
28年3月期第3四半期	66.32	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第3四半期	189,134	143,234	75.3
28年3月期	190,322	143,648	75.0

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 142,378百万円 28年3月期 142,727百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	20.00	—	20.00	40.00
29年3月期	—	20.00	—		
29年3月期(予想)				20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成29年3月期の連結業績予想（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	163,000	△1.3	5,000	△6.9	6,500	△3.1	3,200	7.3	59.21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

通期業績につきましては、現在再算定中であり、修正すべきと判断した場合はできる限り早期に開示いたします。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注)詳細は、添付資料P.5「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年3月期3Q	57,494,823株	28年3月期	57,494,823株
② 期末自己株式数	29年3月期3Q	3,449,137株	28年3月期	1,948,572株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年3月期3Q	55,007,348株	28年3月期3Q	57,665,057株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
(4) 追加情報	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成28年4月1日～平成28年12月31日、以下「当第3四半期」）の我が国経済は、雇用や所得環境の改善等を背景に、全体としては緩やかな回復基調で推移したものの、個人消費は伸び悩み、今一つ力強さを欠く展開となりました。中国経済の減速、英国のEU（欧州連合）からの離脱決定、米国大統領の交代等、海外経済の不確実性は高まり、先行きの不透明感が一段と増した感があります。

そのような環境の中、「中期経営方針2015」（浸透と徹底）の2年目を迎えている当社は、業績回復に向けた各種取り組みとその後の業容拡大のための礎作りに注力しております。クリーン・ケアグループでは、当社最大の強みであるお客様との接点強化・多様化のための種々検証、生産・物流・調達及び情報システム等のコスト見直し、フードグループにおいては、ミスタードーナツのブランド再構築とミスタードーナツに次ぐ事業の育成に引き続き取り組み、更には、マレーシアのドーナツチェーン企業の子会社化等海外事業の拡大、顕在化しつつある人材不足への対応やコーポレートガバナンス強化に取り組んでおります。

当第3四半期は、クリーン・ケアグループは増収となったもののフードグループが減収となったことにより、連結売上高は前年同期から15億91百万円（1.3%）減少し1,236億76百万円となりました。利益面につきましては、減収影響に加え、退職給付費用や原材料等の配送費用等の増加があったものの、「スタイルクリーナー」の原価減少や原材料等の仕入コスト削減により原価率が改善し、連結営業利益は前年同期から6億29百万円（14.0%）増加し51億32百万円、連結経常利益は7億56百万円（13.4%）増加し63億85百万円となりました。固定資産廃棄損、関係会社清算損等が減少した一方で、前期第3四半期に計上した投資有価証券売却益がなくなったことや4月に発生した熊本地震に伴う損失を計上したこと等により特別損益が悪化しましたが、過年度に減損処理を行った関係会社株式の譲渡に伴い税金費用が減少した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期から5億46百万円（14.3%）増加し43億71百万円となりました。

(単位：百万円)

	前第3四半期 (平成28年3月期第3四半期)	当第3四半期 (平成29年3月期第3四半期)	増 減	
			増減額	増減率 (%)
連結売上高	125,267	123,676	△1,591	△1.3
連結営業利益	4,503	5,132	629	14.0
連結経常利益	5,629	6,385	756	13.4
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,824	4,371	546	14.3

<セグメント毎の状況>

①クリーン・ケアグループ

主力のダストコントロール商品は、フランチャイズ加盟店向け売上高は減少したものの、フランチャイズ加盟店から前期に譲受した拠点の売上が計上されたこと等により、前年同期並みの売上高となりました。加えて、レントオール事業（日用品、イベント用品等のレンタル）、ユニフォーム関連事業、化粧品関連事業も増収となりクリーン・ケアグループ全体の売上高は、前年同期から4億87百万円（0.6%）増加し845億80百万円となりました。

営業利益につきましては、販売促進費の増加、退職給付費用の増加等により経費が増加したものの、「スタイルクリーナー」の原価減少、マット等の新布投入の減少、更には重油価格下落の影響も加わり売上原価が改善した結果、前年同期に比べ2億85百万円（2.8%）増加し106億14百万円となりました。

(単位：百万円)

	前第3四半期 (平成28年3月期第3四半期)	当第3四半期 (平成29年3月期第3四半期)	増 減	
			増減額	増減率 (%)
売上高	84,092	84,580	487	0.6
営業利益又は営業損失(△)	10,328	10,614	285	2.8

家庭向けの主力商品であるモップ商品は、販売に注力しているフロアモップ「LaLa」、ハンディモップ「shushu」、「スタイルクリーナー」をセットにした商品「おそうじベーシック3」の売上高は増加したものの、その他モップの売上高が減少し、前年同期の売上高を下回りました。その他商品では、丸ごと水洗いすることでダニのフンや死がい、汗等の汚れを取り除く「ふとん丸洗い宅配サービス」が、宅配便でやり取りする手軽さとwebサイトの充実、チラシ等によるサービス認知度向上の結果、前年同期の売上高を上回った一方、前期7月にリニューアルと同時に価格改定を実施し、前年同期に加盟店による駆け込み仕入れがあった「台所用スポンジ」、フィルター商品や浄水器関連商品等の売上高は減少しました。なお当期9月より、一部地域で「ロボットクリーナーSiRo」のレンタルを開始しております。

また、事業所向けの主力商品であるマット商品は、屋内専用オーダーメイドマット「インサイド」、「うす型吸塵吸水マット」等、当社独自の高性能マットは前期に引き続き好調に推移したものの、その他マットの売上高が減少し、全体では微減となりました。しかしながら、新たなお客様との接点作りツールの1つとして前期発売を開始した「配置ドリンクサービス」が当期も順調に推移している他、宅配水ボトルの交換が不要で水道水を注ぐだけの浄水機能付きウォーターサーバー、「芳香ドーム（小便器用洗浄防汚芳香剤）」等、当期の新発売商品の売上も順調に推移しました。

役務提供サービスにつきましては、市場ニーズの高まりを受けサービススタッフの増員を図ったことで「エアコンクリーニング」や「家事おてっだいサービス」等のお客様売上が増加しロイヤルティ収入は増加しました。更に、当期より新たにサービスを開始した「ホームリペア（壁や床の補修サービス）」の寄与等があったものの、サービス実施時に使用する資器材のフランチャイズ加盟店向け売上高が減少し、役務提供サービス全体の売上高は前年同期を下回りました。

②フードグループ

ミスタードーナツを除くその他フードの売上高は増加しましたが、主力であるミスタードーナツは、お客様売上が減少したことにより、ロイヤルティ収入、加盟店への原材料等売上高が減少し、フードグループの売上高は前年同期から21億92百万円（6.6%）減少し307億96百万円となりました。利益面につきましては、減収の影響や原材料等の配送費の増加もあって、依然として営業損失5億10百万円を計上することになったものの、原材料等の仕入コスト削減による原価率の改善や販売促進費用等の削減により前年同期と比べると5億93百万円増加しました。

（単位：百万円）

	前第3四半期 (平成28年3月期第3四半期)	当第3四半期 (平成29年3月期第3四半期)	増減	
			増減額	増減率(%)
売上高	32,988	30,796	△2,192	△6.6
営業利益又は営業損失(△)	△1,103	△510	593	—

ミスタードーナツは、第1、第2四半期の「クロワッサンマフィン」「ハロウィーンドーナツ」等に引き続き、季節催事をモチーフにした季節感あふれる商品として第3四半期には、クリスマスパーティー等で家族や友人とシェアして楽しむ「ビッグドーナツ」、好評の「ドーナツポップ」をクリスマス限定でカラフルに仕上げた「ドーナツポップ クリスマス」等を発売すると共に、「スヌーピー」をキャラクターに使用したパーティーで活用できるプレート等とのセット「misdo SNOOPY クリスマスパーティーセット」を限定販売する等、話題性のある企画を展開しました。更には、「ミスドファンミーティング」から生まれた取り組み「夢のドーナツフェア」（人気の定番ドーナツをアレンジして開発した商品を期間限定で販売）や「ドーナツビューフェ」（予約制の制限時間内食べ放題企画）、健康志向の高まりを受けて開発した「カフェインレスコーヒー」の販売を開始する等、お客様の声を活かした商品の開発、販売にも注力しました。また11月には、いつでも幅広いお客様にドーナツを楽しんでいただくことを目的に価格見直しを実施し、一部定番商品の価格を引き下げました。更には、ソフトバンク株式会社の「SUPER FRIDAY」（SoftBankのスマートフォン利用者全員に金曜日に利用できるクーポンを配信するキャンペーン）への参加も奏功し、12月単月のお客様売上は前年同期を上回りました。しかしながら、不採算店舗クローズに伴う稼働店舗数の減少影響等により、当第3四半期の全店お客様売上は前年同期を下回る結果となりました。

一方当期は、期初から中期的なブランド再構築を目指した新しいコンセプトの店舗タイプ「V/21」への改装を促進してまいりましたが、11月には前述の価格見直し及び今後の店舗展開を主眼とする新事業方針を発表しました。来店お客様数は増加に転じており、今後はその方針に沿って業績回復を目指してまいります。なお、お客様の利便性が高い商業施設や駅近隣立地への出店を目指して開発を進めてきたテイクアウト専門店「Mister Donut to go」の1号店を11月に出店しました。

③その他

その他につきましては、期中の為替が前年同期の水準に比べて円高で推移したことに加えて、ダスキン共益株式会社（リース及び保険代理業）が減収となった他、楽清香港有限公司（原材料及び資器材の調達）もペーパータオルの取扱量減少により減収となりました。しかしながら、楽清（上海）清潔用具租賃有限公司（中国（上海）でクリーン・ケア事業を展開）が好調に推移したことに加え、前期8月に出資持分を追加取得し新たに連結子会社となった美仕唐納滋（上海）食品有限公司（中国（上海）でミスタードーナツ事業を展開）の売上が計上されたこと、病院施設のマネジメントサービスを手掛ける株式会社ダスキンヘルスケアが増収となったことで、その他全体の売上高は、前年同期から1億13百万円（1.4%）増加し82億99百万円となりました。

営業利益につきましては、前年同期から3億13百万円増加し1億45百万円となりました。

（単位：百万円）

	前第3四半期 (平成28年3月期第3四半期)	当第3四半期 (平成29年3月期第3四半期)	増減	
			増減額	増減率(%)
売上高	8,186	8,299	113	1.4
営業利益又は営業損失(△)	△167	145	313	—

海外事業の動静につきましては、クリーン・ケア事業を展開している台湾、中国（上海）、韓国のお客様売上はいずれも前年同期を上回りました。一方、ミスタードーナツ事業は、台湾、韓国、フィリピン、マレーシア、インドネシアは順調に推移しておりますが、中国（上海）、タイのお客様売上は減少しました。

なお、上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産残高は、1,891億34百万円となりました。前連結会計年度末（以下「前期末」という）と比較して11億87百万円減少しております。その要因は、有価証券が50億13百万円減少したことに対し、投資有価証券が26億70百万円増加したこと等であります。

負債残高は459億円となり、前期末と比較して7億72百万円減少しております。その要因は、賞与引当金が11億66百万円減少したこと等であります。

純資産残高は1,432億34百万円となり、前期末と比較して4億14百万円減少しております。その要因は、利益剰余金が21億67百万円増加したことに対し、自己株式の取得による減少29億2百万円等であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期（平成28年4月1日～平成29年3月31日）通期の業績予想につきましては、平成28年11月10日付で「業績予想の修正に関するお知らせ」を公表しております。なお、通期業績につきましては、現在再算定中であり、修正すべきと判断した場合はできる限り早期に開示いたします。

[連結]

（単位：百万円、%）

	平成29年3月期（予想）			平成28年3月期（実績）	
	金額	百分比	前期比	金額	百分比
売上高	163,000	100.0	△1.3	165,203	100.0
営業利益	5,000	3.1	△6.9	5,372	3.3
経常利益	6,500	4.0	△3.1	6,707	4.1
親会社株主に帰属する当期純利益	3,200	2.0	7.3	2,983	1.8

[個別]

（単位：百万円、%）

	平成29年3月期（予想）			平成28年3月期（実績）	
	金額	百分比	前期比	金額	百分比
売上高	136,100	100.0	△1.9	138,697	100.0
営業利益	3,000	2.2	△16.5	3,593	2.6
経常利益	5,500	4.0	△10.4	6,136	4.4
当期純利益	3,000	2.2	63.8	1,831	1.3

(注)上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に与える不確定な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

連結子会社の税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

（4）追加情報

（繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用）

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,006	20,143
受取手形及び売掛金	10,109	10,010
リース投資資産	1,460	1,359
有価証券	19,528	14,514
商品及び製品	7,590	7,153
仕掛品	174	166
原材料及び貯蔵品	1,432	1,369
繰延税金資産	1,473	1,226
その他	2,524	4,712
貸倒引当金	△39	△40
流動資産合計	63,260	60,618
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	44,397	44,884
減価償却累計額	△25,494	△26,220
建物及び構築物（純額）	18,902	18,663
機械装置及び運搬具	24,139	24,582
減価償却累計額	△17,618	△17,994
機械装置及び運搬具（純額）	6,520	6,587
土地	23,588	23,637
建設仮勘定	324	295
その他	13,100	11,972
減価償却累計額	△9,703	△8,807
その他（純額）	3,397	3,165
有形固定資産合計	52,733	52,350
無形固定資産		
のれん	305	647
その他	7,263	6,475
無形固定資産合計	7,569	7,123
投資その他の資産		
投資有価証券	56,608	59,279
長期貸付金	8	6
繰延税金資産	2,283	2,219
差入保証金	6,408	6,254
その他	1,596	1,319
貸倒引当金	△147	△35
投資その他の資産合計	66,758	69,043
固定資産合計	127,062	128,516
資産合計	190,322	189,134

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,353	7,030
短期借入金	—	36
1年内返済予定の長期借入金	9	9
未払法人税等	413	929
賞与引当金	2,876	1,709
資産除去債務	8	7
未払金	7,057	7,374
レンタル品預り保証金	9,657	9,807
その他	4,552	4,435
流動負債合計	31,929	31,342
固定負債		
長期借入金	10	2
退職給付に係る負債	13,286	13,060
資産除去債務	643	637
長期預り保証金	728	783
長期未払金	74	74
その他	0	0
固定負債合計	14,744	14,558
負債合計	46,673	45,900
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金	10,835	10,835
利益剰余金	119,910	122,077
自己株式	△3,843	△6,745
株主資本合計	138,255	137,519
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,462	8,289
繰延ヘッジ損益	△18	0
為替換算調整勘定	△37	△299
退職給付に係る調整累計額	△3,934	△3,132
その他の包括利益累計額合計	4,472	4,858
非支配株主持分	920	855
純資産合計	143,648	143,234
負債純資産合計	190,322	189,134

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	125,267	123,676
売上原価	72,262	68,529
売上総利益	53,005	55,146
販売費及び一般管理費	48,502	50,013
営業利益	4,503	5,132
営業外収益		
受取利息	450	312
受取配当金	264	295
設備賃貸料	71	72
受取手数料	179	165
持分法による投資利益	92	129
雑収入	331	570
営業外収益合計	1,390	1,547
営業外費用		
支払利息	0	0
支払補償費	116	36
解約違約金	0	86
自己株式取得費用	44	60
雑損失	103	111
営業外費用合計	264	294
経常利益	5,629	6,385
特別利益		
固定資産売却益	4	0
投資有価証券売却益	559	—
負ののれん発生益	50	—
投資有価証券清算益	—	114
関係会社株式売却益	—	24
その他	14	7
特別利益合計	629	147
特別損失		
固定資産売却損	4	21
固定資産廃棄損	235	125
減損損失	130	83
関係会社清算損	115	—
災害による損失	—	174
その他	0	8
特別損失合計	486	412
税金等調整前四半期純利益	5,772	6,120
法人税等	2,132	1,749
四半期純利益	3,640	4,370
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△184	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,824	4,371

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
四半期純利益	3,640	4,370
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,325	△173
繰延ヘッジ損益	0	18
為替換算調整勘定	50	△186
退職給付に係る調整額	204	795
持分法適用会社に対する持分相当額	△86	△129
その他の包括利益合計	3,495	324
四半期包括利益	7,135	4,695
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,282	4,757
非支配株主に係る四半期包括利益	△146	△61

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結会計期間末の株主資本は、前連結会計年度末比735百万円減少しております。

これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上に伴う利益剰余金4,371百万円の増加と、配当による利益剰余金2,204百万円の減少、自己株式2,902百万円の増加によります。

当社は、平成28年7月29日付の取締役会決議に基づき、自己株式1,500,000株を2,901百万円にて市場から取得しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自平成27年4月1日至平成27年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	クリーン・ケア グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	84,092	32,988	8,186	125,267	—	125,267
セグメント間の内部売上高 又は振替高	728	6	2,025	2,760	△2,760	—
計	84,821	32,995	10,211	128,028	△2,760	125,267
セグメント利益又は損失(△)	10,328	△1,103	△167	9,057	△4,553	4,503

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△4,553百万円には、セグメント間取引消去24百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△4,578百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結累計期間において、のれんの金額に重要な影響を及ぼす事象はありません。

なお、のれんの当第3四半期連結累計期間の償却額及び当第3四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	クリーン・ケア グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第3四半期連結累計期間償却額	97	52	—	—	150
当第3四半期連結会計期間末残高(注)	287	108	—	—	395

(注) 当第3四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高287百万円(クリーン・ケアグループ)と平成24年5月に取得した蜂屋乳業株式会社ののれん残高95百万円(フードグループ)等であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自平成28年4月1日至平成28年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	クリーン・ケア グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	84,580	30,796	8,299	123,676	—	123,676
セグメント間の内部売上高 又は振替高	589	9	1,622	2,221	△2,221	—
計	85,169	30,805	9,921	125,897	△2,221	123,676
セグメント利益又は損失(△)	10,614	△510	145	10,249	△5,116	5,132

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△5,116百万円には、セグメント間取引消去56百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△5,173百万円が含まれております。
3. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「クリーン・ケアグループ」において、事業譲受により株式会社ダスキン八代に142百万円、株式会社ダスキン鹿児島に145百万円のものれんが当第3四半期連結累計期間で発生しております。

なお、のれんの当第3四半期連結累計期間の償却額及び当第3四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	クリーン・ケア グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第3四半期連結累計期間償却額	158	9	—	—	167
当第3四半期連結会計期間末残高(注)	607	39	—	—	647

- (注) 当第3四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高607百万円(クリーン・ケアグループ)、39百万円(フードグループ)であります。

(重要な負のものれん発生益)

該当事項はありません。